



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

登校拒否は子どもの命の非常口 — 内田良子さん講演会開催 —

10月25日、心理カウンセラーの内田良子さんを講師に迎え、「不登校」をテーマに講演会を開催しました。不登校の現状、数の推移など社会的な理解につながる話に始まり、子どもたちの気持ちや子どもたちが行動で訴えていることにどんなことが隠れているかなど、具体的な例を挙げて親や周りの大人が理解しづらい現象を解説していただきました。講演後の質問コーナーには、来場者73名の大半が参加。個人の質問にも丁寧に答える内田さんの言葉に、耳を傾けました。悩んでいる保護者が子どもを理解する一助となったことと思います。学校より子どもの命が大事という信念に基づいたお話はやさしい語り口ながらも心の奥底に訴えるものでした。今後もこのような研修会を続けてほしいという声もあり、問題が深いことも実感しました。今後の活動に活かしていきたいと思えます。チケット売り上げ92枚、書籍の販売も好評でした。皆様のご協力に感謝します。

アンケートに27名の方から回答をいただきました。

1. この講演会を何で知りましたか？（重複回答可）

知人・友人:16名 チラシ:9名 広報:1名

その他（ホームページなど）:2名

今回は各新聞社に掲載を依頼し、いつものイベントより多く掲載していただいたのですが、「新聞を見て」がゼロだったのは意外な結果でした。やはり、知り合いからの「クチコミ」が大切という結果だと思えます。

2. 印象に残った点や感想など

登校拒否は子どもの命の非常口。身体が無理だと言っているのだから休みましょう。「子どもの話に耳を傾ける。そうすれば子どもは思いを話してくれる。そして心の傷を思い



出すこともなくなった」●不登校の時休ませてあげれば元気が出るという話が印象に残った。自殺の子の話の中で「大人・学校の先生が誰も動いてくれない」という話も印象に残ったが、親も、誰も動いてくれないと思うことがあると思う。文科省の考えと現実が違うことも驚きだった。暖かい社会になるといいと思う●親の考え方、学校に行かなくてもよい、不登校は選択肢、いじめ＝不登校命を守るために、何故と思わなくなった(社会、学校)●行政(文科省や教育委員会など)や大人と子どもたち、もしくは現場とのズレを感じた●「休み時間は10分間の地獄」、ひきこもりや不登校をビジネスにしている話、話を聞くことの重要性、医療や薬の話●不登校は自分の命を守るために必要なもの●学校を休むことが問題ではない。学校を休めないことが問題だ。自殺した子は学校に行っていた。学校に行かないことはいいことだ！●不登校の(いじめにあった)子どもたちの手紙●無理をさせないこと、子どもの話をよく聞くこと。話をしてもらえ親になれるよう努力したい●とてもわかりやすく話をして下さりよかった。質問や受け答えも具体的でとても参考になった●子どもにわびる。償うこと、またそのタイミングが難しいと思う●子どもが不登校になっても、学校よりも安心できる場所がある方が大切であるということ●なぜ原因を問わなくなった、見えにくくなっている不登校が問題であるということ●命を絶つ子は学校を休んでいない●なぜ学校に行かなくなったのか、理解しようとするのを怠っている。原因が必ずある●不登校の原因がいじめが30%、先生のいじめも26%もあることがわかり驚いた。原因を知ることが大切。不登校で自殺が防げたと聞いて驚いたという思いがした (2ページに続きます)

目次

| | |
|---------------|---|
| 内田良子さん講演会 | 1 |
| イベント報告 | 2 |
| 活動日誌 | 3 |
| ワカモノ・フェスタ告知 | 3 |
| こんな本はいかが？ (6) | 4 |

居場所のひとこま

報徳会館の木のテーブルは長年使い込まれて黒光りしています。テレビ番組「幸せの食卓」にも登場するそのテーブルの上で、いろんな工作が行われています。写真は折り紙の箱作り。ベニヤ板を切り抜いての、ゴム鉄砲作りが進行中です。次回は写真でお見せできるかも。(T)



内田良子さん講演会（つづき）

●「学校外で学び育つ」ということが公に認められたら、とつくづく感じた●問題行動や心の信号を出してきたときに、子どもと向き合っただけでかかわりを持たず、病院に行って薬漬けになっていく子ども達が多いということを知り、心が痛んだ●子どもには「学校に行かなくていいよ。」と言いつつ、時々近所の子どもさんが登校するのを見ると、「どうして行けないのか？」と泣きたくなる日がある。今日の話を知ったことで様々な雑念が消えたような気がする●教員なので、不登校対策が子どもを苦しめているところがあるが、現実を知ることができてよかった●「学校を休めないこと」を「不登校の抱えている問題点である」とのご指摘をされていた点。自分の中での気づきが明確化された●子どもとのQ&Aは話をこじらす。とにかく聞き役になること●不登校は命を守る手法だということ。

3. 今後、勉強会でどのような話を聞きたいですか？

どんなきっかけで外に目を向けるか、人の目が気にならなくなるか、自信の持ち方●親の気持ちをほぐし、子の気持ちもほぐす話●発達障がいについて。中学卒業後に引きこもりやニートになった時の対応について●不登校の子ども将来について●引きこもりから本人が心身ともに脱するための具体策と成功例●このテーマをわかりやすく話して頂ける講演会●引きこもりが動き出したきっかけの話●高機能自閉症について

多くのご意見をいただきました。今後の私たちの活動に生かしていきたいと思っております。



子育て支援ページの告知カード完成！

ホームページを担当する沼尾くんのデザインで、きれいなカードができました。イベント等の機会に配布して下さる方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。

また、子育て関連で「こんなことを掲載してほしい」というご相談など、ご遠慮なくメールや電話でお寄せください。情報をお待ちしています。

ホームページのニックネーム募集中。

メーリングリストへの登録もよろしくお祈りします。

<http://www.nantonakuno.net/kosodate/>

日光市・子育て支援ページは
育児情報
イベント情報
クチコミ情報
子育て支援団体紹介
などの情報を掲載しています。



このページに関するお問い合わせ先
NPO法人 なんとなくのひろば
電話：0288-21-2631
または 0288-21-3517 報徳今市振興会館
メール：info@nantonakuno.net

イベント報告

■ お寺で宇宙談義（サイエンス・カフェ17）8月30日（土）猪倉山泉福寺

電波天文学が専門分野の田原博人さん（前宇都宮大学学長、前天文学会会長）と住職の長谷川興賢さんの対談を軸に、参加者からの質問に答える形で会話が弾みました。星はなぜ見えるのか、星の温度と色、宇宙の広がりなどが話題となり、後半は電波による地球外知的生命体探索の話など、会場のお寺にふさわしく科学と哲学の境界領域がテーマとなりました。以来、「文明の寿命」の話がとても気に入っています。

■ 川むしたんけん隊（サイエンス・カフェ18）

10月5日（日）行川（明神駅近く）

今市の水を守る市民の会の協力で実施。気温22℃・水温16℃、川幅およそ10mの側流を中心に生物調査を行いました。カワゲラ、ヒラタカゲロウ、トビケラ、ヘビトンボ、カワニナ、コオニヤンマの幼虫など多様な水生生物がみつけられました。ホトケドジョウ、シマドジョウ、ハヤなどの魚類も多数。周囲は、田畑や人家が散在する環境ですが、行川上流と同様、きれいな水に棲む生物が多く、日光市の水の豊かさを再認識した観察会でした。



■ 美術造形教室 11月22日（土）市民活動支援センター

発達障がいを持つ（疑われる）子の自己表現力の発達と、家族を対象とした美術ワークショップ。黒田太郎先生（とちぎ美術学院代表）をはじめ、発達臨床心理士、発達障がい教育の研修を受けた大学生たちが12名の子どもたちと、好きな材料で好きなように描き工作する、美術造形ワークショップを開きました。最後はすばらしい作品とともに記念写真。子どもたちの笑顔が印象的でした。

☆ 活動日誌

- 8月24日(日) ベリー会(吉成啓子、吉成勇一)
- 8月30日(日) ワカモノフェスタ実行委員会(加藤、吉成、沼尾)
- 8月30日(土) 第17回 サイエンス・カフェ「お寺で宇宙談義」(泉福寺)
- 9月6日(土) 第23回理事会(市民活動支援センター)
- 9月13日(土) 栃木県経済同友会社会貢献活動支援助成説明会(手塚)
- 9月22日(月) 発達障がい支援者連絡会(第30回)
- 9月27日(土) ワカモノフェスタ実行委員会(加藤、吉成、沼尾)
- 9月28日(日) ベリー会(吉成啓子、吉成勇一)
- 10月1日(水) 子育て支援ホームページ公開
- 10月5日(日) 第18回 サイエンス・カフェ「川むしたんけん隊」(行川・明神地区)
- 10月11日(土) 「べてるの家」講演会
- 10月25日(土) ワカモノフェスタ実行委員会(加藤、吉成、沼尾)
- 10月18日(金)・19日(土) 自閉症に関する講演会(西尾)
- 10月19日(日) ベリー会(吉成勇一)
- 10月23日(木) 子育て支援ホームページ宣伝カード完成(沼尾)
- 10月25日(土) 不登校ってなに? 内田良子さん講演会
- 10月25日(土) ワカモノフェスタ実行委員会(加藤、吉成、沼尾)
- 10月27日(月) 発達障がい支援者連絡会(第31回)
- 10月29日(水) 日光市「ほっとトーク」(西尾、白井、手塚)
- 11月1日(土) 理事会(第24回)
- 11月22日(土) 発達障がい教育・美術造形教室(金谷、白井、手塚)

栃木県経済同友会より 助成金

「サイエンス・カフェ」の充実をはかる事業に、経済同友会より5万円の助成金を受けることができました。

9月30日、宇都宮大学にて「サイエンス・カフェ」の活動についての発表を行いました。研究者を招いて一般市民と対話しながら、科学について共に考える「大人向け」と子どもたちに科学のおもしろさを伝える「子ども向け」を実施していること。「子ども向け」もより力を入れていきたいが、時間設定、内容などで工夫が必要なことなどを話しました。

ここ数ヶ月は、他の行事が続いて、ご無沙汰になっています…今後、物作り等の内容を取り入れ、より充実した内容をめざしたいと思います。会員のみなさんの応援、よろしく願います。(下画像は発表スライドより)

ワカモノ・フェスタ

Challenge ~一人ひとりの物語~

2008

12/7(日)

日時 2008年12月7日(日)
午前10:00 ~ 午後6:00

【受付9:30開始】

場所 とちぎ青少年センター
(アミックス)
宇都宮市駒生1-1-6
TEL 028(624)1488

参加費 500円
中学生以下無料

日光街道

宇都宮環状線

足尾本店

JR宇都宮駅

大谷街道

桜子自

作新学院

教育会館

護国神社

徳島商店

コンセー

不登校している人や、こもっているみんな、それに今悩んでいる真っ最中の子どもやワカモノたちが、自由に気楽に1日遊べるイベント!

大森元気、橋本大輔、梅田順一による3ピースバンド
残像カフェ!
注目度急上昇中の実力派バンドの演奏が聴ける!!

残像カフェLIVE 17:00~

他にも

- 創作カフェ
- バンド・三味線演奏
- フリーマーケット
- シャベリ場
- びあかんひげじいの部屋
- スヌーズレン
- イラスト教室

など
楽しい企画をたくさん用意してお待ちしています(´▽`)

バンクラス太田さんの一日道場

「格闘技」って聞くとちょっとコワイ...けど、エクササイズでココロもカラダもス〜ッキリ♪ 12:00~

主催 **ワカモノ・フェスタ実行委員会**

お問い合わせ

【電 話】090-7269-4494 (加藤)まで

【メー ル】wakaf11@yahoo.co.jp

【ホームページ】http://www.geocities.jp/wakaf11/

アートパネル(書いたもの・描いたもの・作ったものの展示スペース)あります♪ 展示作品、募集します!!!

「子どもも大人も一緒に楽しめる」サイエンス・カフェをめざして

- 地域の小中学校と連携した教材開発・プログラム開発
- 「作って遊ぶ」科学おもちゃの充実
紙ブーメラン、紙トンボ、紙コップUFOなど
- 地域で活動する団体・個人との連携
川虫調査
天体観測会
植物観察

ワカモノ・フェスタのお知らせ

昨年はスヌーズレンのサポートや「一弦楽器」などで参加しました。今回は「高校中退」をテーマにした意見交換の場を運営します。

(以下、「ワカモノフェスタ」宣伝ちらしより)

今年も、「ワカモノ・フェスタ」を通じて、たくさんの方々に素敵な出会いが訪れるならいいなあと思います。

現代社会は、不登校・ひきこもり・ニートなど様々なことで苦しんでいる人たちが多くいます。共通して言えることは「生きづらさがある」ということではないでしょうか? 来場した方が、悩んでいる、いないにかかわらず、今の自分をそのまま表現できるようなイベントをめざしています。ちょっと参加してみませんか。



私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

こんな本はいかが？ その6「こゝろ」 夏目漱石

近頃よくテレビに登場する政治学者の姜尚中(カン サンジュン)さんが、この小説について話しているのを聞いた。姜さんは「悩むことの意義」を強調する。悩むことで自分の中の内なる力に目覚め、生きる力や創造性につながるという。昔、「吾輩は猫である」を読んだ時期に、いちど読んだ記憶があるが、イメージとしては何も残っていない。

「あらすじ」までおまけで付いている角川文庫版を本屋でみつけて再読してみた。「先生」も「私」も大変に悩んでいる。でも、そこから、姜さんの言う「悩む力」の大切さが引き出せるのかは正直のところ、よくわからない。それに、「先生」の苦悩はもうひとつ、別のところにあるのではないかと思ったりもする。

若い頃とは違い、強く残った印象がある。個人の体験したことや考えていたことは、その人の死とともに消滅してしまうというごくあたりまえの事実である。残っているのは、故人から周囲へと伝わった不確かな記憶のみ。漱石はその寂しさを小説で確認したかったのだろうか。人が悩み、考えたことの一部は、文字や画像に記憶することで、他の人にも共有できるかもしれない。もしかすると、より洗練された論理記法、たとえば数学などを用いて記録し伝えることができるかもしれない。けれど、かんがえを伝達することには、いつも曖昧さや不安がつきまとう。最終章の「先生の遺書」は謎解きとしての小説的面白さで一気に読んでしまうが、読んだ後、「遺書」という迷路の中に取り残されたような心持ちがする。もしかすると、「私」という「遺書」を送る存在がなければ、先生の自死はなかったのかもしれないなどと、変なことを考える。「心」を考えることはほんとうに難しい。このことが、急いで断定せず、迷いを恐れず、「悩み」に直面せよという姜さんの解釈につながるのかもしれない。

「こゝろ」が発行されたときの広告文に「自己の心を捕へんと欲する人々に、人間の心を捕へ得たる此作物を奨む」とあったそうだ。漱石はほんとうに「人間の心を捕へ得た」と考えたのだろうか。自己も含め、人間の行動を理解し解釈しようとする営みとはいったい何をめざしているのか。つい、そんなことを考えてみたくなるお話だ。(手塚)

会員について

正会員：40、賛助会員：18

団体会員：3 入会金はありません。

年会費(一口)は以下のとおりです

正会員3,000円

賛助会員 個人5,000円、団体10,000円

「なんにわ」活動の約3割は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしくお願いします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることが出来ます。皆様の積極的な参加をお願いします。

発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。どなたでも参加自由の会です。気軽にご参加ください。(担当:西尾・白井)
連絡先:日光市民活動支援センター(電話:0288-22-2271)



なんとなくのへや

と、今頃になって気付きました。間の抜けた話ですが、これも「なんにわ」らしくていいかなと...。ともかく私たちの活動はいつの間にか5年目に入りました。報徳会館での「子どもの居場所」を始めたのは同年6月でしたから、居場所での活動もすでに4年半に達していることとなります。資金面ではまったく稼ぎのないNPOのまま、5年にわたって活動を続けられたのは、会員みなさんの応援、日光市教委をはじめとする行政の協力、市民活動支援センターを運営する「NPO おおきな木」など、諸団体のご支援のおかげと感謝しています。さて、来年はどんな年にしたいか。そんなことを考える年度末になりそうです。よいお年をお迎えください。(T)